

NPO法人再生塾による 10年以上にわたる総合的な交通政策を担う人材育成の取り組み

NPO法人 持続可能なまちと交通をめざす再生塾

なぜ人材育成が重要なのか？

交通やまちづくりの担い手の能力開発の体系



なぜ“まち”と“交通”の問題は解決しないのか



コンテンツとプロセス

- 何をやるか(理論・知識) とどうやるか!(実践)

ソーシャル・キャピタルの重要性の認識

- われわれが持っている **人間のネットワーク**
- 「資本」であるからには「投資」が必要(想像力・人材・時間)
- ソーシャル・キャピタルは私的財を補充し、人々の幸せに寄与する

まちづくりや交通の問題解決に取り組む
行政・地域・企業等の実務者を対象として、

理論・実践に関する情報を提供し、
参加者相互の対話・交流を通して

“ビジョン”と“夢”を共有し、

持続可能なまちと交通の推進に寄与することが必要

ビジョンと夢を共有し、人的ネットワークを構築

自立的な学び・互学互習

まちづくりの理論・技術を学ぶ場

問題を構造化して捉え、解決策を組み立て、
提案し、説得し、実行しまとめ上げる「力」を養成

まちづくりの支援・提言

政策により未来をつくるのは「ひと」

沿革

- 2006年12月 「市民のための公共交通を考える」国際シンポジウム(神戸国際大学) ⇒ ソウル市の劇的な変化
- 2007年正月 北村先生の自宅に集結!
- 2007年8月～08年2月 **再生塾スタート**
- 2008年1月28日 「まちづくりと交通政策の実践的アプローチ」…近畿運輸局主催シンポジウムを支援
- 2008年8月 **基礎編(ワンデイセミナー)スタート**
- 2008年10月～09年1月 **アドバンスドコーススタート**
- 2009年1月28日 「地域公共交通活性化・再生セミナー」…近畿運輸局主催シンポジウムで塾生が成果発表
- 2010年5月24日 **地方議員向け・地域公共交通政策セミナースタート**
- 2010年7月14日 WCTR(リスボン)で再生塾の活動を発表
- 2012年5月 韓国視察研修旅行開催
- 2012年8月 創立5周年記念交流会の開催と韓国交通研究会との交流協定の締結
- 2014年8月 **技術編セミナースタート**
- 2014年9月 **にしきた商店街を対象とした実践編スタート**
- 2017年7月 台湾視察研修旅行開催
- 2017年9月 **創立10周年記念交流会の開催**

再生塾とは？

1 交通上の諸問題の緩和に対する実質的貢献

参加者を対象とした調査結果では、塾生の満足度は非常に高い。

複数回受講された塾生も多く、アドバンスドコースが塾生にとって相当魅力的であることが窺われる。

受講を通じて身につけた知識・スキルの自己評価について、右図のような成果が得られている。

アドバンスドコースで提案した施策のうち、**事業化された施策も多い(嵐電等)**。

アドバンスドコース実践編によるフィールドでの取組み(にしきた商店街等)は、実質的にフィールドに貢献している。



2 交通上の諸問題の抜本的緩和に繋がり得る新規性

再生塾の研修会の構成および参加実績を下表に示す。

プログラム	定員	参加者数
基礎編セミナー	60	575
地方議員セミナー	15	141
技術編セミナー	60	(単独53)
アドバンスドコース	20	221
合計		1016

アドバンスドコースは、少数のチームを編成し、参加者とLF(ラーニングファシリテータ)が一緒にになり、問題発見、課題抽出、解決策の提案と発表まで行う。

単なる研修を超えて、提案する施策もより実践的なものとなっている。



3 プログラム自体の完成度・応用可能性

再生塾で開発した5つのプログラムは、総合交通政策とまちづくりを推進する主体形成を図るために単体でも十分に意味のあるものだが、全体として一つのパッケージとなっている。

毎回の研修での評価と検証を通じて、プログラムを磨いている。

これらの一連の取り組み実績やノウハウについては、様々な機会に公開している。

その結果、九州地方でも同様の取り組みが始まった(Qサポネット)。国土交通省近畿運輸局や兵庫県・佐賀県などで、**再生塾のプログラムをモデルとした人材育成研修**などが取組まれている。



4 取り組み姿勢

人材育成や、持続的なまちづくりや交通を目標とする取り組みの支援には、相当の労力と時間が必要である。

このため、再生塾は着実で継続性ある活動を可能にするために**NPO法人化**した。

アドバンスドコースでフィールドを提供していただく自治体や交通事業者には、節目毎の情報提供や支援依頼、最終発表会への参加などによる関係の維持を図っている。また、アドバンスドコースの**提案をフィールドが実現**した事例もある。

取組み開始時には再生塾の理事7名がLFとして取り組んできたが、アドバンスドコースの修了生等がLFを担うことにより、現在は17名にまで増加した。**活動の裾野の広がり**の証左と言える。



5 その他

再生塾では塾生とOBを含めた関係者に向けて、行事案内など、**メーリングリストでの情報提供**を継続している。

毎回の研修後の懇親会など「**楽しい**」を継続する仕組みを重視している。その結果、塾生間のOB会なども開催され、人材のネットワークを強め、拡大する取り組みも行っている。

なお、再生塾の運営は、会員及び賛助会員の皆様からの会費とセミナー受講料、アドバイス事業により資金を調達している。公的機関からの補助金等には依存せず、**独立した取り組み**を行っている。



あなたも参加
してみませんか？

